

## 目次

Digital Lifeの歩き方	2
巻頭言	3
<b>サービス</b>	
あなたの研究・教育活動を手助けします！：センターサービス紹介	4
データベース講習会・教材ページを新設	11
サーバハウジングサービスのご案内	12
ソフトウェアライセンスについて	14
<b>お知らせ</b>	
教育用計算機システム利用負担金の一部改定	16
MailHostingのシステム更新に伴う変更のお知らせ	17
WEB PARKデータベース試行サービスのお知らせ	18
<b>資料</b>	
UTnetにおけるIPv6対応状況	19
<b>報告</b>	
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 平成24年度公募型共同研究 採択課題について	21
UTnetで活躍していた中古機器を学内へ譲渡	24
教育用計算機システム見学会報告	26
27th International Supercomputing Conference (ISC'12) 参加報告	27
学習管理システムCFIVEアンケートの結果	30
学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第4回シンポジウム開催報告	32
ECCS（教育用計算機システム）相談員の声	33
新任教職員紹介	35
問い合わせ先	40

## Digital Life の歩き方

本号の「巻頭言」では、情報基盤センター（以下、「当センター」）長の石川教授が、今年6月に世界一となったスーパーコンピュータ「Sequoia」や元世界一の「京」などの動向を紹介しつつ、当センターにおける組織変更の意義について語ります。

「サービス」では、「あなたの研究・教育活動を手助けします！：センターサービス紹介」で当センターのサービスをまとめています。また「ソフトウェアライセンスについて」では、当センターが学内ライセンスを管理しているソフトウェアを紹介しています。ご興味がありましたら、巻末の「問い合わせ先」やホームページをご参照ください。また、「データベース講習会・教材ページを新設」及び「サーバハウジングサービスのご案内」では、それぞれのサービス概要や新しい内容を説明しています。

「お知らせ」では、「教育用計算機システム利用負担金の一部改定」「MailHosting のシステム更新に伴う変更のお知らせ」「WEB PARK データベース試行サービスのお知らせ」の3件があります。教育用計算機システムでは大学院生などの利用負担金軽減、MailHosting では1口当たりの容量増加、WEB PARK では新しいサービスの試行など、更なるサービスの向上を図っています。なお、MailHosting では、サーバの更新に伴い Mailman によるメーリングリストのサービスが廃止されますのでご注意ください。

「資料」では、UTnet における IPv6 対応状況を説明しています。IPv4 のアドレスは既に事業者に対する新規割り当てが終了しており、本学においても IPv6 への対応が不可欠となりつつあります。UTnet では既に学内に対する IPv6 アドレスの割り当てを行っているほか、ネットワーク機器やサービスの IPv6 対応も着実に進められています。

「報告」では、6件報告があります。「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点平成24年度公募型共同研究採択課題について」では、当センターが中核拠点である共同利用・共同研究拠点において募集した共同研究の採択課題を掲載しています。

「UTnet で活躍していた中古機器を学内で譲渡」では、当センターで機器更新により不要となった機器を有効活用するための試みについて報告しています。「教育用計算機システム見学会報告」では、今年3月に更新した当センターの教育用計算機システム（ECCS2012）の報道機関向け見学会の様子を報告しています。「27th International Supercomputing Conference (ISC'12) 参加報告」では、当センターが参加及び展示発表したスーパーコンピュータの国際会議の参加報告を掲載しています。「学習管理システム CFIVE アンケートの結果」では、当センターが提供している学習管理システム（LMS: Learning Management System）である CFIVE について、実際に使用している教員の方々から使い勝手などを聞いたアンケートの結果を報告しています。「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第4回シンポジウム開催報告」では、今年7月12日～13日に開催された当該シンポジウムの様子を報告しています。

「ECCS（教育用計算機システム）相談員の声」では、システム相談員の生の声を、「新任教職員紹介」では、今年4～7月に着任した教職員の自己紹介を掲載しています。

（編集長 品川高廣）

## 巻頭言

先日、米ローレンス・リバモア国立研究所 (LLNL) を訪問した。日本の HPC (High Performance Computing) の現状を紹介するとともに、LLNL における計算科学、計算機科学の状況をうかがった。今年 6 月にスーパーコンピュータ世界一になった Sequoia (20 ペタフロップス級マシン) をこの目で見ることができると期待しての訪問でもあったが、残念ながら実物を見ることはできなかった。Sequoia は元々 Classified (軍事目的) 利用マシンである。軍事目的利用が始まっていないが、来年には軍事目的利用マシンになるという。年内には、LLNL に一般利用目的の 5 ペタフロップス級マシンが設置されるとのことである。

一方、日本のスーパーコンピュータ「京」(10 ペタフロップス級マシン) は、この秋から本格的に一般利用が開始される。「京」コンピュータを使って多くの世界初の成果が創出されることが期待される。

2002 年に地球シミュレータがスーパーコンピュータ世界一になって以来、スーパーコンピュータ世界 1 位獲得が国際競争力とともに語られるようになった。あと数年もすれば 100 ペタフロップス級マシンが登場するのは確実であるが、さらに 10 倍の 1000 ペタ (1 エクサ) フロップス級マシン実現に向けてはハードウェア、ソフトウェア様々な課題を解決していかなければならない。欧米でエクサ級マシン実現に向けたプロジェクトが進んでおり、日本においても次世代スーパーコンピュータに向けた調査研究が開始された。また、ここにきて国際競争から国際協力への気運が上がっている。エクサ級マシンの実現には多額の開発投資が必要となることが予想されるため、開発予算を抑えながらも多くのユーザに利便性を提供できるソフトウェア体系について、国際協力しながら研究開発を進めようとしている。

予算人員縮小の折、如何に関係者が協力し、より費用対効果の高い環境を提供するか、という観点では、我が情報基盤センターの全部門における連携協力が重要な課題である。本年 7 月 1 日付で、情報基盤センター事務局と情報システム部が一つになった。まだ道半ばであり、今後さらなる組織改革を進めていくことになる。

(情報基盤センター長 石川 裕)

# あなたの研究・教育活動を手助けします！ センターサービス紹介

## ネットワーク利用を支援します

P. 4 有線 LAN・無線 LAN サービス

P. 5 ネットワーク利用

## 研究を支援します

P. 6 データベース・文献検索

P. 6 計算サービス

P. 6 ソフトウェアライセンス

## サーバ環境を支援します

P. 7 サーバホスティングサービス

P. 7 サーバハウジングサービス

P. 7 ネットワークサービス

## セキュリティ対策を支援します

P. 8 セキュリティ対策

P. 8 情報倫理・情報セキュリティ

## 教育や遠隔講義・会議を支援します

P. 9 教育・講義

P. 9 遠隔講義・会議

## 講習会、その他のご案内

P. 10 講習会・セミナー

P. 10 冊子・ニュース等

P. 10 いろいろな学内事務サービス

※ 各サービスの問い合わせ先や URL は、巻末の「問い合わせ先」または本センターのウェブサイト (<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧ください。

## ネットワーク利用を支援します

### S 有線 LAN・無線 LAN サービス

#### ■ 携帯端末接続環境

図書館、端末室等で、教職員や学生がご自身の PC を有線 LAN および無線 LAN でインターネットにつなぐための環境を提供しています。利用には教育用計算機システム (ECCS) のアカウントが必要です。

#### ● 部局負担による携帯端末接続環境

所属する教職員や学生のために部局負担で設置した有線 LAN および無線 LAN を、携帯端末接続環境として情報基盤センターで運用するサービスも提供しています。

## ■ UTnet 無線 LAN 接続サービス

表 1 の会議施設等を利用される方に対して、無線 LAN の一時利用サービスを提供しています。

## ■ BB モバイルポイントの学内アクセスポイント

表 1 の会議施設等で、ソフトバンクテレコム株式会社が提供する公衆無線 LAN サービスを利用できます。

## ■ livedoor Wireless の学内アクセスポイント

表 1 の会議施設等で、株式会社データホテルが提供する公衆無線 LAN サービスを利用できます。

表 1：無線 LAN を利用可能な会議施設等

本郷地区キャンパス	山上会館	武田先端知ビル 武田ホール・ロビー
	弥生講堂 一条ホール・会議室	
	弥生講堂アネックス セイホクギャラリー	
	医学部教育研究棟 鉄門記念講堂	
	総合図書館 大会議室	向ヶ岡ファカルティハウス セミナー室
	工学部 1 号館 15 号講義室	工学部 11 号館 講堂
	工学部 2 号館 211 室・212 室・213 室・フォーラム・展示室	
	医学部附属病院 待合室(*1)	
柏キャンパス	柏図書館 メディアホール・ロビー等	

\*1: BB モバイルポイントのみご利用になれます。

## § ネットワーク利用

### ■ ネットワークにつなぐ

IPv4 アドレスブロック申請、IPv6 アドレスブロック申請、ネットワーク敷設、建物間での同じネットワーク利用(建物間 VLAN)等のご相談は、[nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp) まで。なお、どの申請も事前に部局ネットワーク管理者とご相談のうえお問い合わせください。

### ■ SSL-VPN Gateway サービス

SSL-VPN Gateway を経由して、電子ジャーナル、データベース、東大ポータル等の学内限定サービスを学外からでも利用することができます。利用には教育用計算機システム (ECCS) のアカウントが必要です。

## 研究を支援します

---

### § データベース・文献検索

#### ■ GACoS (Gateway to Academic Contents System)

インターネットで文献等の学術情報を探すためのポータルサイトです。

#### ■ 東京大学 OPAC

東京大学が所蔵する図書や雑誌を検索できます。

#### ■ E-JOURNAL PORTAL

東京大学で利用できる電子ジャーナルを検索できます。

#### ■ 東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)

東京大学の学術情報を集めて発信しています。

#### ■ 東京大学学位論文データベース

東京大学で授与された新制の課程博士論文および論文博士論文の書誌事項や要旨を検索できます。

#### ■ 学術研究支援ツール

専門用語（キーワード）自動抽出システムおよび学術研究を支援するツールを提供しています。

### § 計算サービス

#### ■ スーパーコンピュータシステム

大学教員や学生に対して、FX10 スーパーコンピュータシステム、HA8000 クラスタシステム、SR16000 システム (SMP) の3つのシステムを用いた大規模な計算サービスを提供しています。

### § ソフトウェアライセンス

#### ■ ソフトウェアライセンス

Mathematica や JMP、ChemOffice といった各分野で使われる専門的なソフトウェアや、各種 Adobe 製品、ウイルス対策ソフトウェアのライセンスを提供しています。

## サーバ環境を支援します

---

### § サーバホスティングサービス

#### ■ MailHosting サービス

研究室、学科・専攻等の学内組織向けに提供する電子メールのホスティングサービスです。

#### ■ WEB PARK サービス (Web ホスティングサービス)

研究室、学科・専攻等の学内組織向けに提供する Web ホスティングサービスです。

#### ■ DNS ホスティングサービス

研究室、学科・専攻等の学内組織向けに提供する DNS ホスティングサービスです。

### § サーバハウジングサービス

#### ■ サーバハウジングサービス

19 インチラック、電源、空調設備、ネットワーク等の整っている情報基盤センターのサーバ室に、皆様のサーバ機器等を設置して運用できます。

### § ネットワークサービス

#### ■ DNS スレーブサーバ (部局ネットワーク管理者向け)

部局 DNS サーバのスレーブサーバを引き受けます。nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp までご相談ください。

#### ■ 外部ネットワーク接続サービス

JGN-X や SINET4 といった外部研究組織の回線を利用し、遠隔にある組織と東京大学、もしくは東京大学の拠点間を高速ネットワークで接続したい場合は、nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp までご相談ください。

#### ■ NTP (時刻合わせ) サービス

UTnet ルータの IP アドレス (デフォルトゲートウェイ) にて NTP (時刻合わせ) サービスを提供しています。詳しくは nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp まで。

## セキュリティ対策を支援します

### § セキュリティ対策

#### ■ ウイルス対策ソフトウェアライセンス

Windows、Mac OS X および Linux 環境の PC やサーバで使用できる、ウイルス対策ソフトウェアのライセンスを提供しています。

#### ■ 迷惑メール対策サービス

部局のメールサーバに対して、迷惑メール判定ならびに除外サービスを提供しています。

#### ■ サーバ証明書

パブリックサーバ証明書を無料で発行しています。

### § 情報倫理・情報セキュリティ

#### ■ 情報倫理教材

インターネットの利用時などに PC や情報を扱う上で守るべき情報倫理の基本について、「情報倫理デジタルビデオ小品集」（企画：放送大学学園等、監修：国立大学情報教育センター協議会）のストリーミング配信を学内向けに行っています。

<http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/streaming.html#ethics>

#### ■ 情報倫理・コンピュータ利用ガイドライン（注）

本学での計算機資源（情報ネットワーク、コンピュータ等）の利用に関して、「情報倫理・コンピュータ利用ガイドライン」（発行：東京大学情報倫理委員会・東京大学情報システム緊急対応チーム）が配布されています。利用に当たっては、まず当該ガイドラインを参照の上、関連規則を遵守してご利用ください。

[http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ut-cert/gakunai/gakunai\\_info.html](http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/ut-cert/gakunai/gakunai_info.html)

（注）情報基盤センターのサービス項目には含まれていません。

#### ■ 情報セキュリティ・ポリシー（注）

各部局には、情報セキュリティ委員会が作られ、部局ごとに各規則が定められています。機器の設置、ネットワークの敷設の際には、これらの規則を適用されることがあります。

（注）情報基盤センターのサービス項目には含まれていません。



## 教育や遠隔講義・会議を支援します

### § 教育・講義

#### ■ ECCS2012 教育用計算機システム

コンピュータの教育と、コンピュータを利用した教育のための計算機システムです。駒場の情報教育棟と本郷の情報基盤センターを中心として、本郷・駒場・柏地区キャンパス内に約 1,300 台の端末を提供しています。

#### ■ 講義用 WWW サーバ

教員が講義資料を広く公開するための Web サーバです。利用には教育用計算機システム (ECCS) のアカウントが必要です。

#### ■ 教材作成支援

本郷・駒場地区でのマルチメディア教材の制作・利用支援、講義撮影、ノンリニア編集、DVD 作成、ストリーミング配信等の支援、大判プリンタ利用環境の提供を行っています。

#### ■ 学習管理システム CFIVE

講義の受講者を対象として、講義資料の配布、レポートの回収、オンラインテスト、電子掲示板等の機能を提供する Web システムです。利用には教育用計算機システム (ECCS) または教養学部前期課程の学務システム (UTask-Web) のアカウントが必要です。

### § 遠隔講義・会議

#### ■ 遠隔講義・会議システム

本郷と駒場の遠隔講義室、H.323 プロトコルを使ったテレビ会議システム、多地点接続制御装置を提供しています。

#### ■ ストリーミング

動画コンテンツをストリーミング (動画コンテンツを見る PC 側で、データを受信しながら同時に再生を行う方法) で配信するサービスを提供しています。

#### ■ インターネットライブ中継

学術俯瞰講義・卒業式等で、カメラで撮影している映像をリアルタイムでストリーミング配信します。

## 講習会、その他のご案内

---

### § 講習会・セミナー

#### ■ 情報探索ガイダンス

レポート・論文作成や学習・研究に役立つ情報探索の講習会です。

#### ■ 出張講習会

各種データベースについて、ご要望に応じた内容で、学内どこへでも出向いて講習会を行います。

※上記以外にも、センターでは利用者向け講習会やシンポジウムなどを開催しています。詳しくは以下の URL をご参照ください。

<http://www.itc.u-tokyo.ac.jp/seminars.html>

### § 冊子・ニュース等

#### ■ ネットでアカデミック

文献や情報をインターネットで収集するために知っておくと役立つ知識や効率よく探すためのポイントをまとめた小冊子です。

#### ■ Litetopi

各種データベースサービスのニュースやガイダンスのご案内をはじめ、広く情報リテラシーに関するトピックスをお届けするメールマガジンです。

#### ■ スーパーコンピューティングニュース

スーパーコンピュータシステム利用者向けの情報を掲載している広報誌です。

### § いろいろな学内事務サービス

#### ■ 事務システム (注)

東京大学では、情報サービスの一環として、各種事務サービスが提供されています。主なものに、東大ポータル、人事情報システム、財務会計システム、出張旅費システム、学務システム、職員メールシステム等があります（まずは、学科・専攻等の担当事務の方にご相談ください）。

(注) 情報基盤センターのサービス項目には含まれていません。

# データベース講習会・教材ページを新設

図書館電子化部門では、定期的に“情報探索ガイダンス”と題して文献検索に関するデータベース講習会を実施しています。

## ◆どんな講習会をやっている？

「はじめての論文の探し方」「文献管理ツール RefWorks を使うには？」など各種コースがあり、東京大学に所属する、学部生から教職員まで幅広い方が参加しています。

また、授業への出張講習や学部・研究所等の図書館（室）との共催により、医学系、数学系、文学系など特定分野に絞った内容の講習会も開催しています。

毎月の講習会スケジュール・コース一覧は、学術情報検索ポータルサイト「GACoS」(Gateway to Academic Contents System)の「情報探索ガイダンス」のページに掲載しています。携帯サイト、ツイッターでもお知らせしています。

(PC) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

(携帯) <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/keitai.html>

(Twitter) [http://twitter.com/gacos\\_todai](http://twitter.com/gacos_todai)

## ◆参加できなかった！資料だけでも見られる？

こうしたご要望にお応えして、このたび新たに「講習会教材」のページを新設しました。このページには、過去の講習会のテキスト等を掲載しています。

以前から講習会の実施記録や統計ページには教材を掲載していますが、教材を必要とする方に、より見つけやすく分かりやすく提供できるよう、「GACoS」の中に教材単独のページを設けたもので、「参加したかったけど予定が合わなかった」「次回開催まで間があるのでテキストを見ながら自分でやってみようかな」という方におすすめです。

データベース・ツールの名称や、分野ごとに、教材を掲載しています。どうぞご利用ください。( <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/text.html> )



講習会テキスト



(図書館電子化部門)

# サーバハウジングサービスのご案内

## ◇概要

サーバハウジングサービスとは、情報基盤センター内の特定の部屋に建てられた複数のラックをハウジングスペースとして提供し、無停電で機器を運用できるようにする有料のサービスです。サーバやネットワーク機器を設置するための環境(収容スペース、電源、空調)に困っている学内組織向けに提供しており、2012年6月現在で3組織が利用しています。

毎年秋に実施されている学内法定点検における計画的停電時には、電源車を用意して設備への給電を行っているため、無停電であることは言わば民間のデータセンター相当のサービスにあたります。

## ◇提供するサービスと設備

- 19 インチ full ラック (42U)、19 インチ half ラック (20U) ※複数本も可能です
- 電源 (ラックあたり AC100V 30A を 1 回路)
- 空調
- アクセス回線 (UTnet へのネットワーク接続)
- 入退室管理
- ラックの施錠
- 学内法定点検における計画的停電時の電源確保

## ◇利用負担金 (月額)

- 19 インチ full ラック (42U) 75,000 円
- 19 インチ half ラック (20U) 37,500 円

この数字の根拠は、基本的な空調運転費、電気代に基づいたものです。民間のデータセンターでは、full ラック 1 本あたり、交流電源 30A が 1 回路ついて、概ね月額十数万円の維持費がかかります。これ以外に、東大からデータセンターまでのアクセス回線費もかかるので、比較してみると、半額以下であることがわかります。

節電も兼ねて、この機会にご利用を検討されてはいかがでしょうか？

## ◇問い合わせ・案内

WEB ページ <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/housing/housing.html>  
メール [nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)

## ◇おことわり

もしも、東京電力が計画停電を実施して情報基盤センターへの電力供給が停止した場合には、UPS のバッテリー給電で時間差はあるものの、残念ながら設備への給電が続けられなくなりますのでご了承ください。



サーバハウジングルーム内部

(ネットワーク部門)

# ソフトウェアライセンスについて

情報基盤センターでは、現在以下の一覧にあるソフトウェアの学内ライセンスを管理しています。これらのソフトウェアの利用を希望される場合は、各利用内規等をご確認の上、申請手続きを行ってください。

2012年3月以降には、以下の追加・変更を行いました。

- ・ SAS ライセンスの契約内容変更 (2012年3月)  
(利用可能なオプションプロダクト: Base SAS、SAS/STAT、SAS/GRAPH、SAS/IML、SAS/ETS、SAS Enterprise Guide)
- ・ JMP Pro の提供開始 (2012年4月)
- ・ LabVIEW アカデミーの提供方法変更 (2012年6月)  
(オンデマンドトレーニングから e ラーニング学習システムに変更)

また、現在 Autodesk Education Master Suite の提供準備を進めています。

ソフトウェア	メーカー	利用申込み	利用負担金 <sup>(注3)</sup> (課金単位)	問い合わせ先
ウイルスバスター (日本語版、英語版)	トレンドマイクロ (株)	年度単位 <sup>(注1)</sup> (自動継続)	1,000 円/年 (1 台)	ut-security @nc.u-tokyo.ac.jp
ServerProtect for Windows			5,000 円/年 (1 台)	
ServerProtect for Linux			10,000 円/年 (1 台)	
InterScan VirusWall 各エディション			100,000 円/年 (1 台)	
Sophos Anti-Virus (Windows 版、Mac 版)	Sophos (株)		1,000 円/年 (1 台)	
ESET Smart Security ESET NOD32 Antivirus (Windows 版)	キヤノンITソリューションズ(株)		1,000 円/年 (1 台)	
ESET NOD32 Antivirus (Mac 版)			1,000 円/年 (1 台)	
Symantec Endpoint Protection クライアント用 (Windows 版、Mac 版)	(株)シマンテック		1,000 円/年 (1 台)	
Creo Elements (旧: Pro/ENGINEER Wildfire)	PTC ジャパン(株)	年度単位 <sup>(注2)</sup> (自動継続)	10,000 円/年 (1 申請)	proengineer @itc.u-tokyo.ac.jp
JMP Pro JMP	SAS Institute Japan (株) JMP ジャパン事業部		10,000 円/年 (1 申請)	

ソフトウェア	メーカー	利用申込み	利用負担金 <sup>(注3)</sup> (課金単位)	問い合わせ先
SAS	SAS Institute Japan (株)	年度単位 <sup>(注2)</sup> (自動継続)	50,000 円/年 (1 台) <sup>(注4)</sup>	sas @itc.u-tokyo.ac.jp
Mathematica	Wolfram Research		50,000 円/年 (1 申請)	mathematica @itc.u-tokyo.ac.jp
ChemOffice	Perkin Elmer (株) (旧 CambridgeSoft)		30,000 円/年 (1 申請 5 台まで)	chemoffice @nc.u-tokyo.ac.jp
LabVIEW <sup>(注5)</sup>	日本ナショナルインスツルメンツ (株)		50,000 円/年 (1 申請)	labview @nc.u-tokyo.ac.jp
LabVIEW アカデミー <sup>(注5)</sup>		—	無料	
Autodesk Education Master Suite (提供準備中)	オートデスク (株)	年度単位 <sup>(注2)</sup> (自動継続)	50,000 円/年 (1 申請 5 台)	autodesk @nc.u-tokyo.ac.jp
Adobe CLP ライセンス	アドビシステムズ (株)	—	—	東大生協にて取り 扱い (内線: 27991)

(注 1) 利用を終了する場合あるいはライセンス数の変更を行う場合は、「コンピュータウイルス対策ソフトウェア利用変更届」を提出してください。

(注 2) 利用を終了する場合は、「利用廃止届」を提出してください。

(注 3) 基本利用負担金額を記載しています。  
詳細および最新の情報は、UTnet の Web サイト (<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp>)  
をご覧ください。

(注 4) 複数台ご利用になる場合は、別途ご相談ください。

(注 5) LabVIEW の研究利用および LabVIEW アカデミーの利用は、本郷地区キャンパス (本郷・弥生・浅野) と柏地区キャンパス (柏・柏Ⅱ) に限ります。

## 利用申込書の提出およびお問い合わせ

情報基盤センターネットワーク部門 (情報基盤センター4 階事務室)

Web ページ: <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/software-license/>

Email: [software-license@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:software-license@itc.u-tokyo.ac.jp)

(ネットワーク部門)



## 教育用計算機システム利用負担金の一部改定

2012年6月1日に開催された第42回情報メディア教育専門委員会において、大学院生、大学院研究生の利用負担金を、これまでの2,000円から1,000円に変更することが承認されました。2012年度の利用負担金請求時から適用されます。

改定後の利用負担金は以下の通りです。

身分	金額（年額）
学部 1-2 年生	500 円
学部 3-4(3-6)年生、学部研究生	1,000 円
大学院生、大学院研究生	1,000 円
教職員、研究員等	2,000 円

参考 URL

[http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26\\_1613.html](http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26_1613.html)

(情報メディア教育部門)



## MailHosting のシステム更新に伴う変更のお知らせ

学内組織向けメールサーバ (MailHosting サーバ) が 8 月に更新されたことに伴い、以下の変更があります。

なお、これまでの MailHosting サービスには、2008 年 2 月以前に利用を開始した組織用の MailHosting M と、それより後に利用を開始した組織用の MailHosting D という 2 種類がありましたが、今回の更新により一本化されました。しかし移行していただく内容が異なることから、当面はこれまでと同じ Web サイトでアナウンスを行います。

- 1 口あたりの割り当て量を 200MB から 400MB に変更します。

- ・ これに伴い口数を減らす場合、本年度 (2012 年度) に限っては変更後の (少ない口数に相当する) 利用負担金額で請求します。
- ・ 詳細は以下のページをご覧ください。

MailHosting D

[http://mh-d.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26\\_1612.html](http://mh-d.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26_1612.html)

MailHosting M

[http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26\\_1612.html](http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/26_1612.html)

- メールングリストは MailSuite の機能をお使いください。

- ・ Mailman によるメールングリストのサービスは新規受付を停止し、2013 年 2 月に廃止します。
- ・ 利用を継続するメールングリストは、MailSuite に移行してください。
- ・ MailSuite のメールングリスト機能ではいくつかのメリット・デメリットがあります。
- ・ 詳細は以下のページをご覧ください。

MailHosting D <http://mh-d.ecc.u-tokyo.ac.jp/mailman.html>

MailHosting M <http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/mailman.html>

本サービスのご案内 Web サイト

MailHosting D <http://mh-d.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

MailHosting M <http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/>

お問い合わせ用メールアドレス [mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

(情報メディア教育部門)

## WEB PARK データベース試行サービスのお知らせ

WEB PARK サービス（Web ホスティングサービス）の新機能として、データベースサービスを2012年11月から試行的に提供いたします。

これにより、WEB PARK 上にデータベース（MySQL および PostgreSQL）を利用する Web サイトを設置できるようになります。たとえば、WordPress や Movable Type 等の CMS（Content Management System）の利用も可能となります。

### 試行期間

2012年11月～2014年2月（予定）

### 対象

WEB PARK サービス利用者

### 備考

- システム障害以外の技術サポートは行いません。設定ツールを用意しますので、データベースの設定や管理等は利用者各自で行ってください。
- メンテナンスや障害時にはサービスを停止する場合があります。
- 試行サービス終了後は、正式サービスに切り替わる予定です。
- 詳細は WEB PARK サービスのホームページでご案内する予定です。

本サービスのご案内 Web サイト  
お問い合わせ用メールアドレス

<http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/>  
[park-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:park-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

（情報メディア教育部門）

## UTnet における IPv6 対応状況

本記事では、東京大学の基幹ネットワークである UTnet において、ネットワーク部門が提供するネットワークやサービスがどの程度 IPv6 (Internet Protocol version 6) に対応しているのか、その現状と今後の方針について報告します。

### IPv6 とは？

UTnet における IPv6 対応状況を報告する前に、まず IPv6 とは何か、ということを手簡単に説明します。IPv6 とは、現在インターネットで利用されている IPv4 (Internet Protocol version 4) の規模性の問題点を解決するために制定されたプロトコルです。端的に言えば、規模性の問題点とは、IP アドレスの数です。

計算機だけではなく、スマートフォンや家電製品といったものもインターネットに接続されるようになり、一人が利用する IPv4 アドレスの数が増加しています。また、発展途上国でのインターネット普及により、インターネット利用人口も増加しています。そのため、IPv4 で用意されていた IP アドレスの数が足りなくなり始めました。そこで利用され始めているのが IPv6 です。IPv6 は IPv4 に比べると膨大な数の IP アドレスが利用可能となっているため、より多くの機器をインターネットに接続することが可能となります。

### IPv6 って使われているの？

IPv6 自体は、もう 10 年以上前から仕様の策定が開始され、試験的な利用が始まってきました。現在に至るまで、IPv4 アドレスの数がまだ足りていたため、本格的な利用は開始されていませんでした。しかし、昨年 APNIC (Asia-Pacific Network Information Centre) から IPv4 アドレスの枯渇が宣言され、プロバイダ等の事業者は新たに IPv4 アドレスを取得することが困難となりました。幸い、UTnet ではまだ IPv4 アドレスの在庫が存在するため、皆様のリクエストに応じて IPv4 アドレスを割り当てるのが可能ですが、その残り数もどんどんと減少しているのが事実です。いつかは IPv4 アドレスが枯渇し、IPv6 アドレスしか割り当てられなくなる日が来るかもしれません。

このような状況の中、昨年と今年の 6 月 6 日に、IPv6 に関する世界的なイベントが開催されました。昨年は、World IPv6 Day というイベントが開催され、一日だけ様々なサービスを IPv6 対応にして、IPv6 に移行しても問題が発生しないかを全世界規模で確認しました。Google や Facebook といった、著名な Web サイトが IPv6 に対応し、全世界のユーザに対して IPv6 でのサービス提供を行いました。このイベントに関しては、過去の Digital Life (2011.9 Vol.17) で記事としてとりあげています。

今年はそれをさらに進める形で、World IPv6 Launch (<http://www.worldipv6launch.org>) というイベントが開催されました。このイベントを期に、Google、YouTube、Facebook などの著名な Web サイトは IPv6 に対応し、期間限定ではなく恒久的な IPv6 でのサービス提供を開始しています。

## UTnet における IPv6 対応状況

本題に入りますが、UTnetにおいてもIPv6対応は着実に進められています。ネットワーク部門は、2001:200:180::/48 というアドレス空間を WIDE Project (<http://www.wide.ad.jp>) から取得し、ユーザへの割り当てを行っています。現在、基幹ネットワークの全ての部分が IPv6 に対応し、IPv4/IPv6 デュアルスタックでの運用を行っています。これは、ユーザが望めば IPv4 と IPv6 のどちらでも、もしくはその両方を提供する準備が整っていることを意味します。IPv6 アドレスの申請に関しては、UTnet の Web ページ (<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>) の左側メニューにある「IPv6 アドレスの割り当て」をご参照下さい。この Web ページ自体も IPv6 に対応しています。

さらに、ネットワーク部門が提供している東京大学の権威 DNS サーバである `dns{1,2,3}.nc.u-tokyo.ac.jp` も IPv6 に対応しており、IPv6 での名前問い合わせに対しても応答します。

各部局において、ユーザの皆様が IPv6 を利用するにあたっては、新たな機材が必要となる場合があります。UTnet に直結しているネットワークをご利用の場合には、特に新たな機材は必要ありません。ネットワーク部門に対して IPv6 アドレス利用の申請をして頂ければ、既存のネットワークにおいて IPv6 が利用可能となります。一方、部局内でさらにネットワークを多段に構築されている場合には、それらの機器が IPv6 に対応している必要があります。詳しくはネットワーク部門 ([nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)) までお問い合わせ下さい。

## これからの対応計画

UTnet においては多くのサービスが既に IPv6 対応済みとなっていますが、残念ながらいくつかのサービスが、まだ IPv6 未対応となっています。

### リゾルバ DNS サービス

`ns.nc.u-tokyo.ac.jp` ならびに `ns2.nc.u-tokyo.ac.jp` にて提供している、ユーザに対する名前解決のための DNS サーバが、現在 IPv6 未対応となっています。早急に IPv6 対応を進める予定です。対応時には、UTnet Web ページにて告知します。

### NTP サービス

時刻同期のための NTP サービスも IPv6 未対応となっています。これも同様に IPv6 対応を進め、対応時には UTnet Web ページにて告知します。

(ネットワーク研究部門 関谷勇司)

## 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 平成 24 年度公募型共同研究 採択課題について

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」は、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータを持つ 8 つの共同利用の施設を構成拠点とし、東京大学情報基盤センターがその中核拠点として機能する「ネットワーク型」共同利用・共同研究拠点として、文部科学大臣の認定を受け、2010 年 4 月から本格的に活動を開始しました。

このネットワーク型拠点では、我が国の学際大規模情報基盤の共同利用・共同研究の拠点として、超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大規模データを共有するため等の超大容量ネットワーク技術分野、およびこれらの研究分野を統合した超大規模情報システム関連研究分野、更にはこれらの分野間に亘る複合分野の研究が展開されます。

課題採択にあたっては科学技術上の妥当性、施設・設備を利用する必要性、利用・開発の実施可能性等の観点から、下表の 35 課題（60 共同研究拠点）が採択されました（順不同）。また、共同研究課題審査委員会において複数の条件を全て満たすと認められた、大規模情報システム関連研究分野の特に優れた研究課題（表中、研究課題名の冒頭に \* 記号を記す）については、施設利用負担金が免除されました。当センターとの共同研究としては、17 課題が採択されました。

なお、課題募集要項等については以下の Web ページをご覧ください。

【<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>】

### 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 公募型共同研究 平成 24 年度採択課題一覧

※共同研究分野の略称

数：超大規模数値計算系応用分野

デ：超大規模データ処理系応用分野

ネ：超大容量ネットワーク技術分野

情：超大規模情報システム関連研究分野

研究課題名	研究課題代表者 (所属)	研究 分野	共同研究拠点
雲マイクロ物理過程と乱流混合との相互作用の計算科学的 解明	後藤俊幸 (名古屋工業大学)	数	名大
計算集約的統計手法による大規模経済データの実証分析	大西立顕 (東京大学)	デ	東大
高精度行列 - 行列積アルゴリズムにおける並列化手法の開発	片桐孝洋 (東京大学)	数	東大
巨大地震発生サイクルシミュレーションの高度化	平原和朗 (京都大学)	数	東大、京大
*分散クラウドシステムにおける遠隔連携技術	棟朝雅晴 (北海道大学)	情	北大、東大、 東工大、九大

研究課題名	研究課題代表者 (所属)	研究 分野	共同研究拠点
放射線治療に関する計算機統計学的アプローチ	水田正弘 (北海道大学)	デ	北大
次世代ペタスケール CFD のアルゴリズム研究	佐々木大輔 (金沢工業大学)	数情	東北大、名大、 阪大
並列プログラミング言語のシミュレーション宇宙物理学における実践	村主崇行 (京都大学)	数	東工大
次世代ジオスペースシミュレーション拠点の構築	荻野瀧樹 (名古屋大学)	数ネ情	東大、名大、 九大
生体分子の大規模分子動力学計算に対する時系列解析とその応用	戸田幹人 (奈良女子大学)	デ	九大
高分子系粗視化シミュレーション基盤の計算機科学的高度化検討	萩田克美 (防衛大学校)	数デ情	北大、東大、 名大、阪大
分野横断型ハイパフォーマンス計算力学の新展開	牛島 省 (京都大学)	数	京大
スクラムジェットエンジンにおける超音速乱流燃焼の数値シミュレーション	滝田謙一 (東北大学)	数	東北大
並列フラグメント分子軌道計算プログラム OpenFMO の高性能化	南 一生 (理化学研究所)	数	九大
超並列宇宙プラズマ粒子シミュレーションの研究	臼井英之 (神戸大学)	数	京大、九大
移動境界問題及び連成計算の大規模流体シミュレーションと動的負荷分散の評価	高橋公也 (九州工業大学)	数	九大
超多自由度複雑流動現象解明のための計算科学	石原 卓 (名古屋大学)	数	名大
GPGPU による地震ハザード評価	青井 真 (防災科学技術研究所)	数	東工大
壁乱流の大規模組織構造の解明がもたらすエネルギー高効率化への貢献	辻 義之 (名古屋大学)	数情	名大
海溝型巨大地震を対象とした大規模並列地震波伝播シミュレーション	竹中博士 (九州大学)	数	東大、東工大
分散型 e ポートフォリオの構築に向けた、コンテンツ変換機能・移動機能に関する研究	大西淑雅 (九州工業大学)	ネ	東大
環オホーツク圏の海洋・大気シミュレーション	中村知裕 (北海道大学)	数	北大
超大規模数値計算に基づく核融合炉先進ブランケットデザイン条件における高精度 MHD 熱伝達データベースの構築	山本義暢 (山梨大学)	数	東北大
クラウド基盤ミドルウェアのスケラビリティ向上に関する研究	杉木章義 (筑波大学)	情	東大
*グリッドデータファームによる大規模分散ストレージの構築とサイエンスクラウド技術の研究	村田健史 (情報通信研究機構)	数デネ情	東北大、名大、 阪大、九大
天体活動現象の輻射磁気流体シミュレーション	松元亮治 (千葉大学)	数	東大

研究課題名	研究課題代表者 (所属)	研究 分野	共同研究拠点
感性情報による自然環境の観察・記録支援システムの構築	斎藤 馨 (東京大学)	ネ	東大
量子アニーリングを用いた機械学習およびデータマイニングの並列アルゴリズム開発	宮下精二 (東京大学)	デ	東大
災害影響評価のための大規模マルチフィジックス・シミュレータの高度・高性能化	田上大助 (九州大学)	数	九大
トレオニン合成酵素における反応制御機構の理論的解明	庄司光男 (筑波大学)	数	東大
ログ解析機構を備えた並列スクリプト実行システムの研究	倉光君郎 (横浜国立大学)	情	東大
大規模テキストを利用した経済指標分析手法に関する研究	和泉 潔 (東京大学)	デ	東大
*マルチパラメータサーバイ型シミュレーションを支えるシステム化技術に関する研究	奥田洋司 (東京大学)	数デ情	北大、東北大、東大、東工大、名大、京大、阪大、九大
実在地域における建築・都市環境の総合数値予測	大嶋拓也 (新潟大学)	数	東大
大規模計算機空気冷却風速場の実時間解析と移動型ネットワークセンサー連携による計測融合オペレーション	東田 学 (大阪大学)	数デ	東北大、阪大、九大

(学際情報科学研究体 伊藤祥司)



# UTnet で活躍していた中古機器を学内へ譲渡

## ◇背景

UTnetの基幹ネットワークを構成している機器は、利用者からのニーズや、トラフィックの増加に応じて、機能やインタフェースを増強しています。また、学内の各建物に1台ずつ、支線ネットワークと基幹ネットワークを接続するためのエッジスイッチ(L2SW)を配置しています。都合、学内全体において200台以上のエッジスイッチを設置しています。これらの機器、特にエッジスイッチは、経年劣化での故障によるネットワーク停止を防ぐために、5~6年周期で新品への交換を行っています。しかし、最近のネットワーク機器は過去のものに比べて故障することが少ないため、まだ利用可能なものでも、予防交換の対象となり、現役を引退する機器があります。

そこでネットワーク部門では、2005年秋にPCリユースに先んじる初めての試みとして、UTnet部局担当者を通じて、これらの不要となった中古機器を学内にて必要としている部局に配布することを開始しました。この試みは成功し、多くの中古機器が学内で有効に再利用されました。この流れをうけて、本格的な中古機器再利用の試みを開始しました。

## ◇東大ポータル (Todai Portal) の利用

東大ポータルには、ときどき不要物品の案内が出ます。これを見て、ネットワーク部門でも、東大ポータルを利用して中古機器の譲渡を行うのが有効ではと考えました。そこで、情報基盤センターの用度係(当時)と相談した結果、2011年10月に、初めて東大ポータルを通じた中古機器の譲渡を行うことができました。このとき、30台ほどの中古エッジスイッチを配布する旨を東大ポータルに掲載し、全て譲渡先が決定しました。中古機器とはいえ、UTnetの基幹にて活躍していた機器であるため、各部局にて使用するにあたっては、性能も機能も必要十分なものとなっています。

## ◇2回目の譲渡

2012年6月に、東大ポータルを用いて告知した、第2回目の中古機器譲渡が行われました。中古エッジスイッチ30台以上に加えて、光ファイバを含む各種ケーブル、コアL3スイッチのモジュールカードなど多種多様な中古機器(全部で469点)のリサイクル譲渡を案内したところ、多くの部局から引き合いがあり、ほぼ全て再利用機器として引き取られて行きました。

## ◇今後

UTnetで活躍した機器の配布は、学内に多くの需要があることがわかりましたので、今後も中古機器の譲渡について、東大ポータルを通じた案内を行っていきます。





今まで譲渡した機器類の例

(ネットワーク部門)

## 教育用計算機システム見学会報告

情報基盤センターでは、2012年3月23日に駒場Iキャンパスの教養学部情報教育棟において、2012年3月に更新した教育用計算機システム（以下、ECCS2012）の報道機関向け見学会を開催しました。

ECCS2012は学生及び教職員が教育・研究のために利用するコンピュータやネットワークからなるシステムです。専用の教育研究用端末が、本郷地区キャンパス情報基盤センター本館や駒場Iキャンパス教養学部情報教育棟を始めとして、本郷・駒場・柏の各キャンパスの図書館や教室に配置されています。今回の更新では、教育研究用端末のデスクトップ環境へ学外からもアクセス可能とし、さらに大学では初めてとなるネットプリントサービスとの連携により、教育研究用端末からの印刷出力を学外でも行えるようにしました。同時に、システム運用コストの抑制や省電力化、災害時のサービスの継続性向上等を実現しました。

見学会では、最初に柴山悦哉教授より情報基盤センターやシステムの概要説明があり、続いて丸山一貴助教よりECCS2012の機器や機能に関するプレゼンテーションが行われました。参加者からの質疑応答後、丸山助教の説明で実際に機器が設置されているサーバ室や、教育研究用端末が多数配置されている演習室の見学を行いました。

ECCS2012の詳細については、情報基盤センター 教育用計算機システムの Web サイトに掲載しています。

教育用計算機システムの Web サイト：<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>



システムの概要説明を行う  
柴山悦哉教授



サーバ室で機器の説明を行う  
丸山一貴助教

(情報メディア教育部門)

# 27th International Supercomputing Conference (ISC'12) 参加報告

スーパーコンピューティング部門では、2012年6月17日から21日までの間、ドイツのハンブルクで開催された、27th International Supercomputing Conference (ISC'12) に参加し、研究展示を行いました。

## ISC について

International Supercomputing Conference (ISC) は、高性能計算、ネットワーク、ストレージに関する国際会議ならびに展示会で、1986年に初回が開催されて以来、毎年初夏に開催され、2012年で第27回を数えます。2012年に開催されたISCは、ISC'12と略して呼ばれています。スーパーコンピュータのランキングとして知られているTOP500 Listの2012年6月版がこの会議で発表され、Technical Programでは、招待講演を中心に研究発表、チュートリアル、ワークショップ等が開催され、展示会では175の企業や研究機関が展示を行いました。場所はドイツ、ハンブルクのCongress Center Hamburg Am Dammtorで開催され、57カ国から2,400人以上が参加し、昨年の傾向と同様に、ヨーロッパやロシアから7割、北米から2割、1割がその他の場所からということでした。情報基盤センターが展示を行うのは、昨年に引き続いて2回目です。

## TOP500

TOP500 Listの発表は、ISCの中で特に注目されるイベントの一つです。TOP500 List (<http://www.top500.org>) は、世界のスーパーコンピュータの性能のランキングを、LINPACKという、係数行列が密行列の連立一次方程式を解くベンチマークの処理速度によって競うものです。1993年から始まり、年2回更新されていて、そのうちの1回は例年ISCでの発表となっています。今回の1位は、アメリカのローレンス・リバモア国立研究所のセコイアというシステムでした。セコイアは1,572,864コアを使ったIBMのBlue Gene/Qシステムで、LINPACKの計算性能は16.32PFLOPSです。10位以内のスーパーコンピュータのうち、4つのシステムがBlue Gene/Qによって構築されたシステムで占められていました。

国内のスパコンでは、「京」が2位だった他、国際核融合エネルギー研究センターのヘリオスが12位、東京工業大学のTSUBAME2.0が14位、続いて、情報基盤センターで4月から試験運転を開始したOakleaf-FXシステムが1,043TFLOPSを記録して18位にランキングされました。

Blue Gene/Qシステムは、電力効率を基準にTOP500のスパコンをランク付けするGreen500 List (<http://www.green500.org>) や大規模グラフ探索のベンチマーク性能を競うGraph 500 List (<http://www.graph500.org>) でも高い性能で1位を獲得しています。Oakleaf-FXシステムは、Green500では866.3MFLOPS/Wで43位、Graph 500では358.10GE/sで3位をそれぞれ獲得しました。



写真 1 : TOP500 List 1 位の表彰式の様子  
左から LBNL の Horst Simon 氏 (プレゼンター)、  
IBM の Brian Connors 氏、  
LLNL の Kimberly Cupps 氏



写真 2 : 今回の TOP500 List のハイライト  
について講演を行う Erich Strohmaier 氏

## 情報基盤センターによる展示

情報基盤センターは展示会場において、本センターで運用しているスパコン、本センターが進めている研究プロジェクトの一部 (ppOpen-HPC プロジェクト、FP3C プロジェクト) に関する展示 (ポスター展示) を行いました。ppOpen-HPC プロジェクトは、ホスト CPU とメニーコア・GPU 等のアクセラレータから構成されるポストペタスケールシステムの処理能力を十分に引き出す科学技術アプリケーションの効率的な開発、安定実行を助けるための、自動チューニング機構を有するライブラリや実行環境を開発するプロジェクトです。FP3C プロジェクトは、エクサスケールの高性能計算のためのソフトウェア技術、言語、プログラミングモデルに関する、日仏で行っている共同研究プロジェクトです。

本センターの展示ブースには、特に Oakleaf-FX について興味を持って立ち寄った人が多かったようです。

## HPC in Asia Workshop

展示会が始まる前日の 17 日には、HPC in Asia Workshop が開催されました。このワークショップは、昨年に引き続き 2 回目の開催で、今回の参加者は 100 名を超えました。ワークショップは、各国の HPC 事情の報告、アジアの巨大システムの運用、ポスターセッション、パネルディスカッションの 4 部で構成されていました。最初の各国の HPC 事情のセッションでは、昨年のメンバーだった中国、韓国、台湾、シンガポール、日本に加えて、今年はインドからも、最新の HPC 事情の報告が行われました。第 2 部のアジアの巨大システムのセッションでは、「京」と中国の Tianhe-1A の現在の運用についての講演がありました。ポスターセッションでは 12 件のポスターが発表され、うち 9 件は日本からのものでした。パネルディスカッションでは、各国の代表がパネリストとなって、HPC 分野での国際協力をテーマに議論が行われました。それぞれの国の事情は違っていても、アジア各国の協業が必要という方向性は一致していたようです。

## 招待講演

会議は 31 の Invited Session を中心に Research Paper、Research Poster、BoF などのセッションで構成されていました。キーノート講演は 4 件行われ、18 日の Airbus の Guus Dekkers 氏は、航空力学のシミュレーションを始めとして、航空機の設計・開発の様々な場面で必要とされる HPC 技術について講演を行いました。可視化、並列化、I/O 高速化等で今後も改善の必要があり、特に電力については 2017 年には 5MW、2021 年には 10MW 必要であると予想されるため、電力管理も大きな課題の一つであるとの事でした。19 日のキーノートでは、Samsung の Byungse So 氏が、最新のメモリ技術についての講演を行い、微細化に限界が見えてきた DRAM を置き換える可能性がある STT-MRAM の詳細について、多くの質問が出ていました。20 日は、インディアナ大学の Thomas Sterling 氏が、今年で 4 回連続となる ISC でのキーノート講演を行いました。最近 1 年の HPC 分野の発展についての話題で、今年が 100 万コアの計算機の年として、IBM の Blue Gene や Intel の MIC (Xeon Phi) 等の多数の計算コアを搭載可能なシステムが消費電力の面でも今後注目されていくだろうとの事でした。また、国際協調、ビッグデータ等も主要なトピックとして挙げられていました。ISC 最終日の 21 日は、ライブニッツ計算センター/ミュンヘン工科大学の Arndt Bode 氏が、TOP500 List で 4 位になったヨーロッパのスパコン “SuperMUC” について、電力効率を高めるための施策を中心に紹介していました。



写真 3 : 講演を行う Arndt Bode 氏

## おわりに

ISC は、2009 年から 4 回連続でハンブルクにおいて開催されてきましたが、次回は場所をドイツのライブツィヒに移して、2013 年 6 月 16 日から 20 日の日程で開催される予定です。

(スーパーコンピューティング研究部門 鴨志田良和)



# 学習管理システム CFIVE アンケートの結果

情報基盤センターでは、2004年度から学内でサービスを提供している学習管理システム CFIVE を 2013 年度末に更新する予定です。

CFIVE は当初より機能の追加や改修を行っていますが、2004 年頃とは状況が変わり、現在では、学習管理システム（以下、「LMS」という）の選択肢も増えてきました。また、UTask-Web や UT-mate といった教務システムとの連携も、今後考慮する必要があります。

このような状況を勘案して、ハードウェアの更新だけでなくソフトウェアの更新も検討しています。

そこで、CFIVE をご利用の先生方に対して、現状の CFIVE の利用状況と評価、および次期 LMS に求められる機能等についてアンケートを実施しました。アンケートは、2011 年度冬学期と 2012 年度夏学期に CFIVE の利用申請を行った教職員 187 名を対象として、その内 40 名よりご回答頂きました。以下には、アンケート結果の一部を示します。

## 1. CFIVE の利用状況と評価

図 1 は CFIVE で利用する機能について尋ねた結果です。教員が受講者に教材ファイルを配布可能な「教材」機能の利用率が最も高く、約 9 割の教員が教材機能を利用していることが分かります。なお、回答結果は、CFIVE 上で調査した各機能の利用率とほぼ同様で、アンケートの回答者は一般的な CFIVE の利用者と考えられます。

図 2 は利用する機能の満足度を 5 段階で評価して頂いた結果です。「満足」と「やや満足」を加えた回答は 40-70% で、特に教材機能に対する「不満」は 1 名だけでした。利用率の高い教材機能の満足度が高いことから、多くの教員において概ね CFIVE の評価が高いと考えられます。

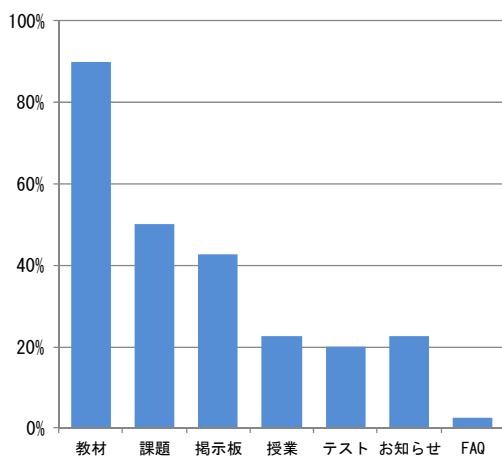


図 1. 機能利用率  
(アンケート回答結果より)

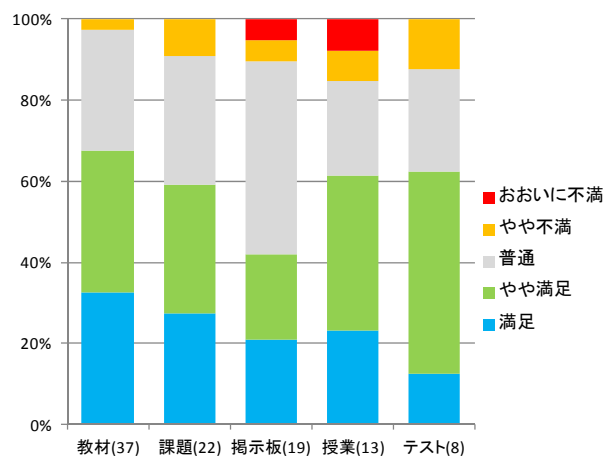


図 2. 各機能の満足度  
(項目軸の括弧内は回答数。未利用を除く)

## 2. 次期 LMS の検討

図3は次期 LMS に求める機能（商用・非商用の LMS に実装済の標準的な機能）を尋ねた結果です。現在の CFIVE に実装されている「教材配布」や「レポート（課題）」を除くと、教員が受講者に対して通知する「学生への通知」、UTask-Web や UT-mate に履修登録されたデータを自動的に LMS に反映させる「受講者連携」の要望が高いことが分かります。

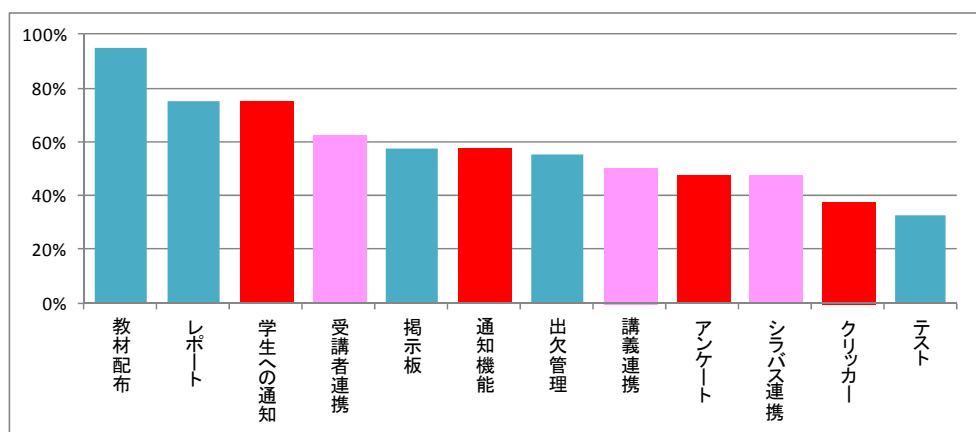


図3. 次期 LMS に求める機能  
 (赤色：CFIVE に未実装、桃色：教務システムとの連携機能)

図4は次期 LMS として利用を希望するシステムを尋ねた結果です。他の LMS と比較して CFIVE の要望が非常に多く、過去8年間の利用実績が評価されていると考えられます。そこで次期 LMS では、要望の高い機能を現在の CFIVE に追加して実装する案と、それらの機能が実装済みの他の LMS を採用する案の両方を検討する予定です。

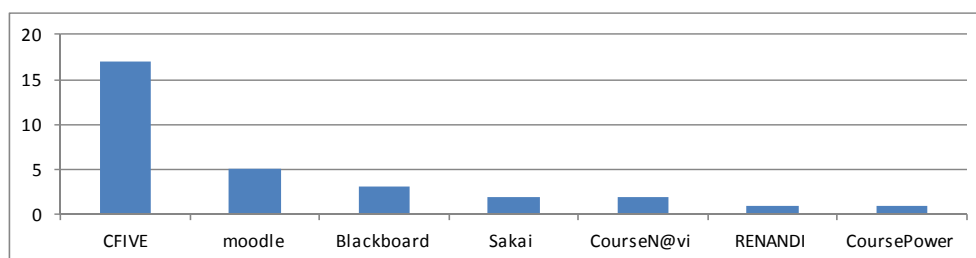


図4. 次期 LMS として利用を希望するシステム（複数回答可）

最後に、お忙しい中アンケートにご回答いただいた先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。貴重なご意見ありがとうございました。

本サービスのご案内 Web サイト：<http://cfive.ecc.u-tokyo.ac.jp/cfiveinfo/>  
 お問い合わせ用メールアドレス：[c5-support@mm.itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:c5-support@mm.itc.u-tokyo.ac.jp)

(情報メディア教育部門)

## 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第4回シンポジウム開催報告

学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点では、7月12日（木）、13日（金）に「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点 第4回シンポジウム」を、UDX GALLERY（秋葉原）で開催しました。合計209名の参加者（大学125名、独法等研究機関24名、企業他60名）を迎えて盛会のうちに終了しました。

「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」（以下、当拠点）とは、北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学にそれぞれ附置するスーパーコンピュータを所有する8つの共同利用施設を構成拠点として、東京大学情報基盤センターがその中核拠点を担う「ネットワーク型」の共同利用・共同研究拠点です。各年度で共同研究の公募・採択が行われ、当拠点との共同研究を実施します。

シンポジウム初日は、石川 裕 総括拠点長（東京大学情報基盤センター長）による主催者挨拶と、下間康行 文部科学省研究振興局情報課長の来賓挨拶が行われました。そして2日間にわたり、当拠点の研究分野である、超大規模数値計算系応用分野、超大規模データ処理系応用分野、超大容量ネットワーク技術分野、超大規模情報システム関連研究分野、およびこれらの分野にまたがる複合分野研究の研究発表および研究内容紹介が行われました。

今回は、平成23年度に実施された公募型共同研究39課題の口頭発表による最終報告、および、平成24年度公募型共同研究に採択された全35課題のポスター発表による研究内容紹介を実施し、ポスター発表の前には、各課題1分ずつのインデキシングも行われました。平成23年度採択課題の発表は当拠点の課題審査委員による最終審査を兼ねていますが、各課題の発表後には委員に限らず一般の参加者も交えた活発な質疑や意見交換が行われました。

閉会に際しては、小林広明 課題審査委員長（東北大学サイバーサイエンスセンター長）からシンポジウム全体のサマリーを含めた挨拶がありました。

当シンポジウムのプログラム、最終報告書の正式版、および、平成24年度採択課題の発表ポスターは次のURLから参照可能ですのでご覧ください。

<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/sympo/>

（学際情報科学研究体 伊藤祥司）



## ECCS（教育用計算機システム）相談員の声

今年は相談員泣かせの年だったろうか。そう、去る 2012 年 3 月に ECCS は新システムへと移行した。マシンスペックが上がり、プリンタは複合機となり、ソフトの入れ替えがあった。画面が少し広くなり高精細になったことが私にとって嬉しい更新である。逆に UNIX サーバが無くなったのが残念だった。

せっかくなのでここでは新旧両システムで受けた質問を振り返りたい。

-----

相談員には様々な仕事があるが、たとえ解決できなくともユーザの相談に乗ることそのものが最大の仕事だと私は考えている。

計算機が思う通りに動かなくて目の前の端末を叩き壊したくなる衝動に駆られた経験は誰にでもあろう。そんな時、ユーザとシステムの間で挟まったクッションの役割として相談員は最大限輝くのではなかろうか。

さて、新システムに不具合は付き物である。大方の予想通り、稼働したての新システムに戸惑うユーザの声が多く寄せられた。その中には相談員には到底解決不可能なものも含まれていた。電源を入れてからログインするまで時間が非常にかかるといった軽度のものであれば、白黒で印刷したのにカラーの代金を請求されるといった重度のものまで多彩である。Windows の C ドライブにファイルが保存されないのは仕様<sup>1</sup>だが、その事実は広く知られていないようだ。

ユーザが沸騰しきっていた報告がいくつかあった。相談員はクッションの役割である。

-----

旧システムでは、無線 LAN・プリンタ・フリーズに関する質問相談がほとんどだった。相談員に寄せられる質問は様々であるが、その中には「自分で調べて解決してもらいたい」と感じるものが少なからずあった。質問や相談は大歓迎であるが、情報社会で生きていくためのリテラシーは是非各自で身に付けて欲しい。

それはそうと、旧システム時代で私の記憶に強烈に残る相談が 2 つ存在する。

1 つめは中年女性からの相談だった。彼女は質問の要領を得ないまま日常生活の雑談を一方的に 10 分程も続けた。結局、質問内容は「Word で作成した論文の目次ページ数が微妙にずれているので揃えて欲しい」といったものであったが、私が Word と格闘している間にも彼女は通りかかった一般ユーザに同じ質問をぶつけていた。その時の私はどちらかと言えばすっかり雑談相手だった。少し遠慮して欲しいものである。

2 つめは Excel のマクロに関する質問で、最小二乗問題を実装したかったらしい。図書館のユーザの席で相談に乗っていると、隣の席の利用者から「静かにして欲しい」との苦情を受けてしまい途中で退散した。確かに図書館は静かに利用するところだ。しかし一方で、ECCS の相談は音声でやり取りするのが慣例である。

この問題は私の中では未だ解決できない矛盾である。

---

<sup>1</sup> [http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/11\\_1599.html](http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/announcement/2012/06/11_1599.html)

-----

はてところで以前の古くなったマシンは一体どこへ行ってしまったのだろうか？ その答えは ECCS の更新から少し経った頃の秋葉原にあった。私が電気街を巡回していた時のことである。見覚えのある iMac と HHK が中古品<sup>2</sup>として大量に店頭に置かれていけば見逃すはずもなかろう。こんな場所で再び出会ってしまった衝撃と、そこに漂うそこはかとないう寂しさが同時に私を襲った。相談員として、またユーザとして長く付き添った端末との別れが再び訪れたのである。

実は以前の 2008 年の更新の際にも全く同じ光景を目にしている。その時にも学科の同期と旧システムの端末についての思い出を語ったものである。2008 年の更新では PowerPC から Intel への移行が話題を呼んでいた。

次の ECCS の新システム移行は 2016 年頃であろうか。その頃にはもはや在籍していない私でも、秋葉原に足を運べば現行 ECCS 端末に再び会うことができるに違いない。

(本郷システム相談員 本谷 徹)

ECCS (教育用計算機システム) 相談員とは : ECCS に関するユーザからの質問や相談に対応する、本学学生によるアルバイトスタッフです。詳しくは以下のページをご覧ください。  
<http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/sodan.html>

---

<sup>2</sup> センター注: 教育用計算機システムの各機器はリース契約で導入されているため、リース期間終了後、中古品として市場に出回ることが有ります。なお、端末上のハードディスクは個人情報等が残らない対策が施されています。

## 新任教職員紹介

### 新井 忠（あらいただし）

#### 本部 情報戦略課 副課長

2012年7月1日付けで、産学連携部産学連携課から配置換により本部情報戦略課（研究支援チーム）副課長として参りました、新井と申します。

前職は産学連携本部が行う産業界との共同研究の創出、知的財産の管理と活用、大学発ベンチャーの支援や起業教育などの活動の支援、及び全学の産学連携に関する活動を推進支援する産学連携課にて業務支援に従事していました。

今回、7月1日付で情報基盤センターと情報システム本部との統合・連携による組織改編で本部情報戦略課研究支援チームに配置換えとなり、業務内容もスーパーコンピュータシステム関連業務、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点の中核拠点にかかる業務、外部資金の受入等、今までに経験をしたことのない業務に日々戸惑うことばかりです。

2012年4月に柏地区に導入されたFX10スーパーコンピュータシステムの正式サービスも開始となり、研究支援業務に早く慣れ微力ながらもお役に立てればと考えております。

まだまだ、不慣れで多々ご迷惑をおかけすることがございますが、1日も早く業務内容を理解できるようになり、皆様から信頼されるよう頑張りたいと思います。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

### 丸山 忍（まるやま しのぶ）

#### 本部 情報戦略課 総務チーム係長

2012年7月1日付けで、情報システム部情報戦略課総務チームに配属されました丸山忍と申します。

こちらに異動する前は、駒場IIキャンパスの生産技術研究所、その前は、同じく駒場にある大学入試センターで勤務したため、本郷地区での勤務は7年ぶりとなります。この7年間、あまり本郷地区へ来ることもなかったため、キャンパス内の変わりように大変驚いています。

情報基盤センター事務部は、この7月に情報システム部と統合されました。この統合までに、様々な準備をされた情報基盤センターと情報システム部の皆様方は、大変ご苦労されたことと思います。この原稿は異動後2週間で書いていますが、この新しくなった組織、総務という初めて経験する仕事のため、一日でも早く覚えるよう日々勉強中です。教職員の皆様方にはご迷惑おかけすることもあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

**齊藤 暁子（さいとう あきこ）**  
**本部 情報戦略課 総務チーム主任**

2012年7月1日付で本部情報戦略課に着任した齊藤暁子と申します。

以前は農学部総務課人事チーム（給与担当）に6年間おりました。農学部では、共済組合事務手続き 単純労務謝金 常勤職員の給与計算をやっておりました。情報基盤センターと農学部は距離的には近いのですが、環境の違いに驚いております。早く皆様の顔と名前が一致するようになりたいです。

趣味は今年の5月から習い始めたピラティスというエクササイズです。ピラティスは怪我で寝たきりの人のために考案されたエクササイズで、運動が苦手な私でも続けられそうです。

皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

**海津 聡（かいづ さとし）**  
**本部 情報戦略課 会計チーム係長**

2012年4月1日付で医学部附属病院管理課経理チーム契約担当から用度係に配属された海津聡と申します。学内から用度と名のつく組織が激減した中、貴重な存在の中で働けることに身が引き締まる思いでしたが、7月1日付で事務組織が本部情報戦略課と統合となり、会計チーム契約担当となってしまいました。実態としては契約担当というよりは施設担当といった感じなので、経年劣化と大震災の影響でダメージの大きい建物を守るために、何かとやるべきことが出てきそうな感じがしています。通勤で職場が駅から遠くなった分、ダイエット効果を期待しつつ日々センターのために努力する所存ですので、よろしくお願ひ申し上げます。

**佐藤 英之（さとう ひでゆき）**  
**本部 情報基盤課 学術情報チーム係長**

2012年4月1日付けで図書館システム係専門職員（編集注：7月1日～ 学術情報チーム係長）に配属になりました、佐藤英之と申します。現在は主に図書館業務システムの運用管理を担当しています。昨年度までは附属図書館の企画渉外係におり、主に学内外の図書館関係の会議の運営等を担当していました。

情報基盤センターへの配属は今回で2回目になります。最初の配属は東京大学に初めて入った2001年から3年の間、図書館情報掛（当時）におりました。当時の担当業務は現在と同じく図書館業務システムの運用管理でしたが、間に8年のブランクがあり技術の進歩も大変目覚ましいので、現在は最初の配属の時と同じく日々勉強の毎日です。

趣味は食べ歩きで、特にカレーが大好きで本郷エリアのカレー屋はもとより、都内の様々なエリアのカレー屋に足を運んでいます。

まだまだ業務に慣れずにご迷惑をおかけすることも多いかとは思いますが、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 駒井 優哉 (こまい まさや) 本部 情報基盤課 ネットワークチーム

2012年4月1日付でネットワーク係に技術職員として着任致しました駒井優哉と申します。

いきなり書いてあることが食い違っているようですが、これはご存じの通り、情報基盤センター事務部が情報システム部と統合された影響によるものです。所属としては本部の情報システム部情報基盤課付けになったのですが、仕事の内容は今の所は情報基盤センターとして行うものが多いので、メールの署名にどう書くべきかこの文章を書いている現在も頭を悩ませており、悩んでいる間に名刺を発注し損ねてしまいました。



私はこの春まで日本電子専門学校という専門学校に通っていました。元々は早稲田大学で応用化学を学んでいたのですが早々に行き詰まって中退し、悩んだ末に「パソコン弄るのが好きだからその方面に進もう。でもプログラムとか書けないしインフラとか良いかも」なんて至極浅い考えからネットワークについて学び始めました。詰まる所がほとんど付け焼刃なので、「船徳」の徳さんか「茶の湯」のご隠居かといった有様で先生方や先輩方には大変にご面倒をお掛けしております。

現在は週に一度のペースで主に駒場 I キャンパスで機器の交換作業をして回っています。未だ東大に慣れていない私としては色々な場所に行くことができ非常に助かる仕事です。皆様にも行く先々でご迷惑をお掛けするかもしれませんが、どうぞ宜しくお願い致します。

## 山本 和男 (やまもと かずお) 本部 情報基盤課 スーパーコンピューティングチーム係長

2012年4月1日付で情報基盤センタースーパーコンピューティング部門に着任し、同7月1日付で情報システム部情報基盤課へ配置換となりました山本と申します。

以前には情報基盤センターの前身である大型計算機センターと教育用計算機センターにいたことがございます。

以下、職歴を振り返りつつ、思い出のマシンなど書き並べてみようと思います。

1979年4月1日～1987年1月15日

東京大学大型計算機センター業務第2掛・システム管理掛

その頃にあった計算機等:

HITAC H-8800/H-8700 (隠れた名作 OS HITAC OS7 稼働の最後の1年間にいたの  
でした)

HITAC M-200H

DEC VAX-11/780

HITAC S-810 センター最初のスーパーコンピュータ

HITAC M-680 シリーズ

DEC VAX8600

珍しい周辺機器:

C/A/T フォトタイプセッター (初期の troff の標準の出力デバイス)

本物の VT100 端末 (当時は珍しくはなかったわけですが)

当時のネットワーク事情 (学内 LAN) : rwho で表示される行数が多いとうれしい

1987年1月16日～1999年3月31日

東京大学教育用計算機センター

計算機:

FACOM M-380、FACOM M-360

FM-16β

NCR TOWER1632

富士通 S-3/50・S-3/80 (合わせて100台)、S-4 シリーズ (太陽がいっぱい)

情報基盤センター設立の日に、学外へ転出となったのでした。

1999年4月1日～2003年3月31日

文部科学省統計数理研究所

当時は南麻布にありました。

2003年4月1日～2010年3月31日

東京大学情報基盤センター情報教育支援係

2010年4月1日～2012年3月31日

独立行政法人大学入試センター事業部事業第三課

スーパーコンピューティング部門の前身である大型計算機センターを去ってから、  
実に25年ぶりの出戻りとなります。こんなに時間が経ってしまったのは未経験の新人と  
変わらない状態ですが、これから精進しますのでどうぞよろしくお願ひします。

**佐々木 友博（ささき ともひろ）**  
**本部 情報基盤課 スーパーコンピューティングチーム**

はじめまして。2012年5月からスーパーコンピューティングチームの事務補佐員として採用になりました佐々木 友博です。柏キャンパスで勤務しています。

初めて柏キャンパスに来た時、建物が新しく、とてもきれいでびっくりしました。主に、柏キャンパスで行う講習会の準備や受付、申請書の作成などを担当しています。

今まで、柏キャンパス常駐の事務職員の方はいらっしゃらなかったとお聞きしました。皆さんが、専門の仕事をしながら事務の仕事もしていたということで、大変だったのではと思います。これからは、皆さんが自分の仕事に専念できるよう、私が少しでもサポートできたらと思っています。

最近では通勤、職場の雰囲気にも慣れ、日曜日には趣味のフットサルで体を動かしたりして、とても充実した日々を送っています。

まだ不慣れで皆さんにご迷惑をおかけしていますが、これからどんどん仕事を覚えていきたいと思っています。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。



# 問い合わせ先

## 情報メディア教育部門

<http://media.itc.u-tokyo.ac.jp/>

**ECCS2012 教育用計算機システム** <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

[ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23004 駒場 46140

### MailHosting サービス

MailHosting M（～2008年2月） <http://mh.itc.u-tokyo.ac.jp/>

MailHosting D（2008年3月～） <http://mh-d.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

[mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:mailhosting-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23004 駒場 46140

**WEB PARK サービス（Webホスティングサービス）** <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/>

[park-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:park-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23002

**DNSホスティングサービス** <http://dh.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

[dh-support@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:dh-support@ecc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23004 駒場 46140

**携帯端末接続環境** <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/system/mobile.html>

[ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23004 駒場 46140

**講義用WWWサーバ** <http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

[ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ecc-support@ecc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23004 駒場 46140

**学習管理システム CFIVE** <http://cfive.ecc.u-tokyo.ac.jp/>

[c5-support@mm.itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:c5-support@mm.itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：駒場 44402

**教材作成支援** <http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/editing.html>

[elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23002 駒場 44403

**遠隔講義・会議システム** <http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/dist-edu.html>

[DistEdu-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:DistEdu-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23002 駒場 44403

### ストリーミング、インターネットライブ中継

<http://elearn.itc.u-tokyo.ac.jp/streaming.html>

[elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:elearn-support@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線：本郷 23002 駒場 44403



## 図書館電子化部門

[http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/  
kiban-dl@mm.itc.u-tokyo.ac.jp](http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/kiban-dl@mm.itc.u-tokyo.ac.jp)

**GACoS (Gateway to Academic Contents System)** [http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/  
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22649

**東京大学 OPAC** <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/>

MyOPAC <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/myopac/>

携帯電話版 <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/iecats/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

内線：22649

・システム障害

[syskan@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:syskan@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22614

**E-JOURNAL PORTAL** <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ext/ejportal/>

・東大附属図書館 ASK サービス <https://opac.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ask/>

内線：22728

**東京大学学術機関リポジトリ (UT Repository)** [http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/  
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp](http://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/digilib@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22728

**東京大学学位論文データベース** [http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/  
digilib@lib.u-tokyo.ac.jp](http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/digilib@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22728

**学術研究支援ツール** <https://mbc.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/tools/>

[kiban-dl@mm.itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:kiban-dl@mm.itc.u-tokyo.ac.jp)

**情報探索ガイダンス、出張講習会** <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>  
[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22649

**ネットでアカデミック** <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/net.html>

[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22649

**Litetopi (メールマガジン)** <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/litetopi.html>  
[literacy@lib.u-tokyo.ac.jp](mailto:literacy@lib.u-tokyo.ac.jp)

内線：22649

## ネットワーク部門

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

**東京大学情報ネットワークシステム (UTnet)** <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/>

・ 一般

[nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22750 03-5841-2750

・ 申込み手続き

[request@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:request@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22750 03-5841-2750

・ 通信障害

[nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22748 03-5841-2748

**ネットワークセキュリティ、ウイルス対策ソフトウェアライセンス**

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/security/>

[ut-security@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:ut-security@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22711

**迷惑メール対策サービス (メールサーバ管理者向け)**

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/security/antispam/>

[antispam-support@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:antispam-support@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22711

**ソフトウェアライセンス** <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/software-license/>

[software-license@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:software-license@itc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22711

**UTnet 無線 LAN 接続サービス** <https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/wlan/wlan.html>

[nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22750

**BB モバイルポイントの学内アクセスポイント**

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/bbmobile-announce.html>

**livedoor Wireless の学内アクセスポイント**

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/livedoor-announce.html>

**サーバハウジングサービス**

<https://www.nc.u-tokyo.ac.jp/riyou/housing/housing.html>

[nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp](mailto:nocstaff@nc.u-tokyo.ac.jp)

内線 : 22750

## スーパーコンピューティング部門

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/>

### スーパーコンピュータシステム

問い合わせ方法のご案内 <http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/support/reference.html>

- ・利用申込み関係、手引き等請求

[uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp](mailto:uketsuke@cc.u-tokyo.ac.jp)

内線：22717, 82717 03-5841-2717

- ・プログラム相談、システム利用に関する質問

FX10 専用 [soudan-fx10@cc.u-tokyo.ac.jp](mailto:soudan-fx10@cc.u-tokyo.ac.jp)

HA8000、SR16000 専用 [soudan@cc.u-tokyo.ac.jp](mailto:soudan@cc.u-tokyo.ac.jp)

内線：22712 22713

- ・システムに関する要望・提案

[voice@cc.u-tokyo.ac.jp](mailto:voice@cc.u-tokyo.ac.jp)

内線：22712, 22713

## 学際情報科学研究体

### 学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点

<http://jhpcn-kyoten.itc.u-tokyo.ac.jp/>

### PKI

<http://www.pki.itc.u-tokyo.ac.jp/>

SSL-VPN Gateway サービス <http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/sslvpn/service.html>

[sslvpn-soudan@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:sslvpn-soudan@itc.u-tokyo.ac.jp)

サーバ証明書 <http://www.pki.itc.u-tokyo.ac.jp/ceerpj/>

[PublicServerCertificates@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:PublicServerCertificates@itc.u-tokyo.ac.jp)

○本センターのサービスに関するご相談：[conciierge@itc.u-tokyo.ac.jp](mailto:conciierge@itc.u-tokyo.ac.jp)



※ 各サービスの窓口は、巻末の問い合わせ先をご覧ください。直接お越しになる時は、サービスによって場所が異なりますので事前にご確認ください。

東京大学情報基盤センター  
Information Technology Center, The University of Tokyo

[本郷] 〒113-8658 東京都文京区弥生2-11-16  
TEL: 03-5841-2710 FAX: 03-5841-2708  
〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 総合図書館内  
[駒場] 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 情報教育棟内  
[柏] 〒277-8589 千葉県柏市柏の葉5-1-5 第2総合研究棟内

東京大学情報基盤センター広報誌  
**Digital Life Vol.19 (2012.9)**

編集・発行  
東京大学情報基盤センター広報誌委員会  
編集長：品川 高廣  
編集委員：関谷 貴之、吉田 稔、関谷 勇司、實本 英之、  
伊藤 祥司、早野 裕士、永岡 陽香